第 55 号

from M

岸和田市郷土文化室(自然資料館(自然史担当)・郷土史担当・文化財担当)

平成 26 年 8 月 6 日

業界ルール～カタカナと漢字～

山岡　邦章

これを書いている郷土文化室の私は，学問のベースが文学，歴史学です．すると様々な表記が，漢字とひらがなになります．当たり前の話です．しかし，違う学問の世界では表記がカタカナになるものがあります．同じ課なのですが，きしわだ自然資料館の学芸員さんは，自然史系の学芸員さんですから，扱う動植物の表記がカタカナになります．いつもこれを見て，私には納得がいかないことがあるのです．

例えば，岸和田には国指定天然記念物のぶな林があります．大正 12 年に指定された指定関係書類をみると「ぶな」と表記されています．しかし自然史系のきしわだ自然資料館では「ブナ」となります．動植物の記名はカタカナが基本なのです．これはどうしてなのでしょうか？自然史系の書籍でも動植物の記名表記はカタカナです．これだけは自然資料館の学芸員さんに何度説明を受けても理解ができないのです．

淀川に国指定天然記念物の魚で「イタセンパラ」という魚がいます．これは環境省レッドデータブックでも絶滅危惧 IA 類に指定されている絶滅危惧種の魚です．実際に見たことのある方は少ないのではないでしょうか．薄い板のような体形で，おなかの辺りに鮮やかな虹色がある小さな魚です．そう，この魚は「板鮮腹」なのです．「イタセンパラ」と書くと何だか外来魚のような印象ですが，本来は板鮮腹であり魚の形態を言い表した絶妙なネーミングと言えるでしょう．それは「ニッポンバラタナゴ」も然り，「オオサンショウウオ」も然りなのです．もはや時効ですが，とある文化財関係の研究会の懇話会で，国の天然記念物である「オオサンショウウオ」を昔，食べたことのある方が，話されているのを聞いたことがあります．「オオサンショウウオ」は，なぜ大山椒魚なのかを．

このように言葉には本来の意味があり，カタカナ表記のみにするとその言葉の持つ本来の意味を伝えられないような気がするのです．このような例は，ほとんどすべての動植物種にあてはまり，そういう意味では現在の動植物図鑑は残念でたまりません．

圧倒的に自然史系の読者が多いこのフロム M，どうでしょう？提案ですが，動植物名の初出部分は漢字とカタカナの並列標記にしませんか？象形文字が起こりである漢字が持つ豊かな表現力，日本語が本来持っている表現力，そういったものが持つ伝達能力をワザワザカタカナにしてイミをワカリニククするヒツヨウはナイとオモッテいます．カタカナは音を正しく伝えることができますが，意味は正しく伝わりません．「ブラックバス」や「ブルーギル」などの外来生物のカタカナ表記はまだわかり

ますが，日本固有種のカタカナ表記だけはその真意が私にはわからないのです．ご意見をいただければ幸いです．いいや！カタカナ表記のここが素晴らしい！という反論でも OK です（笑）

(やまおかくにあき：郷土文化室)

生物名はなぜカタカナ表記なのか

岡本　素治

山岡さんの疑問提起には,「なぜ意味のわかりやすい漢字を使わないのか」ということと「なぜ平仮名でなく，外来語表記に使われる片仮名を使うのか」という二つの問題が含まれているようです．順次，考えてみましょう.

片仮名か平仮名か

まずは，簡単な「平仮名か片仮名か」問題から．生物名を片仮名表記にしているのは，漢字・平仮名表記が基本である現代文の中に置かれたときに，目立ちやすいから，あるいは一つの単語として認識されやすいからです．昔は平仮名だったではないかというご意見ですが，全体を見れば理由はすぐわかります. 和泉葛城山ブナ林の天然記念物指定にかかわる調査報告書の一部を下に引用してみます.

此ノぶな林ヲナスぶな樹ノ数ハ, 目通リ三尺以上ノモノ約千八百本トセラル. 而モ多クハ目通リ五, 六尺乃至七．八尺ノモノニシテ，其ノ一丈以上ニ達スルモノモ亦多シ．此ノ如ク多数ノ大樹ガ此ノ小区域ニ繁茂セルモノナレバ，春夏ノ候此ノ樹林ノ最モ盛ンニ繁茂セルノ時ニハ．如何ニ此ノ樹林ノ壮観ヲ呈スルカ想像ニ難カラズ.

戦前は，学術的文書は漢字・片仮名表記が通例だったのです．その中で，一般的にはなじみの少ない可能性がある生物名は，目立ちやすく単語としてのくくりが分かりやすいように平仮名表記されるのが通例だったのです．通例というよりは，指導あるいは強制であったのかもしれませんが，確認はできていません．現在では，学術的文書も漢字・平仮名表記ですから，生物名は文書中では片仮名表記するのが通例になっています.

漢字表記の問題点

漢字表記には，意味がつかみやすいという利点があるのは確かですが，逆に，すべての人に読めるかどうか，という不安があります．寿司屋の湯飲みの「魚偏」の漢字をすべて読める人はほとんどいないのではないでしょうか．すべての和名を漢字表記にしようとすると，似たような困難な状況が生じるであろう事は確かでしょう.

中国人は大丈夫なのだろうかと心配する人もあろうかと思いますが，彼らにとっては文字通りに発音すれば良いのですから問題はありません（と思います）．要するに，漢字は日本語にとっては借り物ということなのです．日本古来，あるいは各地特有の呼び名がもともとあり，中国に同じ物があって漢字が存在する時にはその字を採用し，読みは古来の呼称を使う（訓読み），同じ物がない（分からない）時には漢字の音を借りて表記したり，新たな漢字を作ったりして対応する，これが日本語表記の歴史でした．音を借りての表記が洗練されたものが平仮名や片仮名です．生物名のすべてを漢字表記にしようとすることは，ものすごく作為的で，困難が伴うわりに報いの少ない作業になるように思え

ます．

和名は日本古来の呼称や各地の固有の呼称に由来するものが基本ということから，今となっては語源のはっきりしないものが多々あります．意味を表す漢字で表記したくても，どうしようもないことになります．推測に基づいて漢字を当ててしまうと，本来の語源が永遠に失われてしまうことにもなりかねません．

イタセンパラを「板鮮腹」と表記することは，そのような事例になる可能性が強いのではないかと危惧しています．「板鮮腹」とは，いかにも後知恵っぽい当て字に思えませんか．重箱読みでもありますし．Wikipedia から，イタセンパラの和名の語源に関する項を引用してみましょう．

「イタセンパラ」の和名は濃尾平野における地方名に由来し「板のように平たい体形で，色鮮やかな腹部をもつ魚」の意である．濃尾平野のセンパラまたはセンパ・センペラは本種を含むタナゴ類一般に対する混称で，「びた銭に見える」ことを由来とする説もある．

2 論併記になっています．濃尾平野にタナゴ類に対してセンパラやセンパという呼称があったのは事実のようです．おそらく，農民や淡水魚漁師，子供達の使っていた呼称であろうと思われます．彼らが，鮮やかな腹部をもった魚，という意味で「センパラ（鮮腹）」呼んだとはとても信じられません．それに対して，「銭（ぜに・セン）」とタナゴ類はしばしば結びつけられるイメージのようです．ゼニタナゴという種類もありますし，ゼニタナゴの地方名に「ニガビタ」という呼称もあるようです（Wikipedia による）．

<u>学名代わりに使われる標準和名</u>

片仮名書きの標準和名は，学名に準じるものとして使われることがよくあります．分類学的意識をもって生物名を使うときには，万国共通の学名が用いられます．西洋人ならラテン語の学名をそのまま表記して，目立つようにイタリックにして終わりです．しかし，日本語にラテン語表記はなじみにくい．縦書きならなおさらです．そんなときに，片仮名書きの標準和名を，学名に準じるものとして使うことがしばしば行われています．たとえば，「腰痛や偏頭痛など，ヒトとなったが故の病に人類は悩まされることになった」というようなニュアンスは，片仮名書きの標準和名であってこそ出せるものだと思われます．

片仮名表記は妥当な選択だと思いますが，意味が伝わりにくいという欠点はあります．初出時に併記するかどうかは別にして，名前の意味を伝える努力は欠かせません．ただ現実には，語源を教えることが我々業界人の話のネタの一つになっているのは事実です．

(おかもともとはる：自然資料館)

Information

■岸和田城の展示案内■

企画展「収蔵資料展―甲冑と古文書・古書蹟―」

歴代岸和田藩主や藩士ゆかりの甲冑類を中心に，市が保管する甲冑約 20 点と，貴重な郷土資料である古文書・古書蹟類約 10 点を併せて展示します．

日　時：2014 年 5 月 21 日(水)～9 月 28 日(日)

時　間：午前 10 時～午後 5 時（入場は 4 時まで）

場　所：岸和田城天守閣 2 階展示室

入場料：大人 300 円，中学生以下無料

主な展示資料：

・小出吉英所用の甲冑

・岸和田藩士廣澤家伝来の甲冑

・大般若経(平安後期)

ほか約 30 点

きしわだ自然資料館行事案内■

「自由研究相談会 2014」

生物･地学分野の自由研究で分からないところや，採集した生物の名前を専門家がお教えします．化学・物理学・気象天文分野は除きます．

日　時：2014 年 8 月 16 日(土)

時　間：午後 1 時 30 分～4 時

場　所：自然資料館 1 階ホール

費　用：無料

持ち物：筆記用具・見てもらいたい標本類・生きたままのものを持参する場合は，かごや水槽に入れ，逃げないようにしてお持ちください．

申し込み：先着順．当日開始の 30 分前から受け付け開始．

【きしわだ自然友の会　会員募集】

きしわだ自然友の会は，自然資料館と協力し，独自の行事や出展，会誌などを通して自然を楽しく学んでいる団体です．

自然が好きで，生物や地学をもっと楽しみたい・学びたい人は，ぜひご入会ください．未就学児の方も参加できる行事も多数あります．

学校園の授業に活用できるプログラムもあります．

・対象：身近な自然に興味のある個人・家族

・期間：4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

・費用：個人会員年間 2,000 円（中学生以上の人が 1 人で入る場合）・家族会員 3,000 円（同居家族全員が対象），特別会員年会費 10,000 円（友の会を援助してくださる人・団体）

・　申込・問い合わせ：4 月 1 日から直接，きしわだ自然友の会（自然資料館内　072-423-8100 へ）

遠足や社会見学に，自然資料館をご利用ください．

自然資料館は，大阪南部のいろいろな自然を紹介する自然史博物館です．

展示室には，化石などの実物標本や模型，ジオラマ，体験コーナーなどがあり，見て，ふれて，体験することで，身近な自然をしっかり学ぶことができます．

春の遠足や社会見学などに，ぜひご利用ください．ご予約のうえ，減免申請書を提出していただくと，教職員をふくむ全員の入場料が無料となります．雨の場合のみの予約も可能です．

近くには，岸和田城や城下町など，歴史の勉強ができる施設もあります．

※お願い　[fromM]は，学校教職員に１部ずつお配りください．
担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが，よろしくお願い申し上げます．

【from M】では，みなさまからのご意見，ご感想，ご質問等をお待ちしています．博物館での学習，研究等に関する情報，地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら，ぜひご投稿ください．お名前，連絡先，所属等をご記入の上，右記の宛先までお送りください．電子メールでも受け付けています．

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5　きしわだ自然資料館
TEL:　(072) 423- 8100　FAX : (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/
(Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し，検索すれば，簡単です)